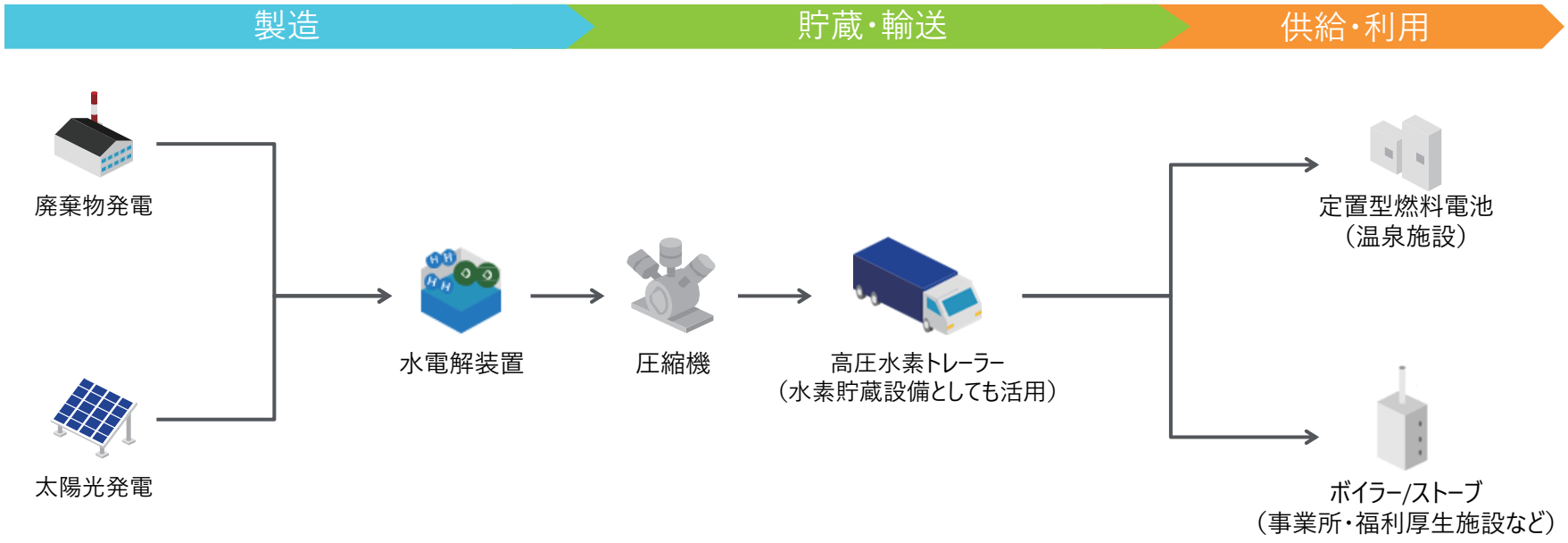
北海道を水素アイランドへ、電力系統に依存しない大規模再エネ水素サプライチェーン構築・実証事業
（北海道苫小牧市、実施代表者：スパークス・グリーンエナジー&テクノロジー株式会社）

実証概要とサプライチェーン図

概要	苫小牧市が保有する沼ノ端クリーンセンター内の廃棄物発電とその敷地内の太陽光発電の電力を組み合わせ、安定的に年間100万Nm^3の再エネ水素を製造・供給するシステムを構築する。 電力は自営線により水電解装置へ直接供給し、電力系統の制約により再エネ発電所の追加設置が困難となるような状況を解決するとともに、廃棄物発電所の夜間余剰電力の有効活用による製造コスト低減と地域内での水素利用を通じた需要創出や経済好循環に貢献する。 水素は高圧水素トレーラーにより、水素貯蔵設備として活用しつつ市有施設や近隣企業に運搬し、定置型燃料電池、ボイラー・ストーブにて利用することで、寒冷地において広く普及している灯油の使用量削減にも貢献する。		
事業場所	北海道苫小牧市	**事業期間**	令和5年度～7年度

サプライチェーン図



（スパークスグループ実証事業資料より作成）